

大原社会問題研究所五十年史

Ⅴ 戦後

研究所再建の緒につく

政経ビルへの事務所移転後、研究所の事業として差当り『日本労働年鑑』の編集準備のため所員を採用することになり、五月二日の委員会で、上杉捨彦氏の入所が決定した。六月中旬には高松朔子、八月には堀三四三氏がそれぞれ事務員として入所した。

七月九日の放送会館における委員会では、研究所建物の新築計画が再び問題となった。当日の委員会には、旧研究員竹内謙二氏も出席したが、この際広く寄附金を募集して新事務所を復興すべしとの結論に達した。その後、高野、久留間、竹内氏の間には建築の具体的な話が進められ、熊谷組当事者と久留間、竹内氏の会合などがあつた。しかし預金封鎖その他で資金の見とおしがつかず、ついにこの計画も断念せざるを得なかつた。

この年(一九四六年)の秋より、久留間氏は法政大学教授に就任した。十一月五日には、故櫛田民蔵氏の一三回忌が開かれ、研究所関係者多数が出席した。

一二月三日の委員会(出席久留間、大内、権田氏。高野、森戸氏は欠席)では、所員増俸の件、次年度予算案、役員改選等につき協議が行われた。一九四六年度の決算額は二四万四、一六七円、また一九四七年度の予算は六一万四、八六九円であつた。

法政大学大原社会問題研究所五十年史

発行 1970年11月

編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#) ← 法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】 → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)
